

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会
開催日時	令和4年11月28日（月） 午後5時00分 開会 午後6時34分 閉会
開催場所	オンライン会議ツール「Zoom」、 上中条青少年センター 3階会議室
出席者	三川俊樹（部会長） 福井齊 角谷典計 内田正俊 廣瀬憲吾 越智聡 桑本由利子 明瀬秀憲 平松克一 藤森潔文 浦野祐美子 ほっとけん！アワード発表者4人 【計15人】
欠席者	西坂剛 【計1人】
事務局職員	小田教育総務部長 吉崎社会教育振興課長 高橋社会教育振興課参事 稲角社会教育振興課指導育成係長 山口社会教育振興課主査 【計5人】
開催形態	公開
議題(案件)	付託事項の検討 ・青少年健全育成運動重点目標の取組状況 ・ほっとけん！アワードの選出 ・青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【開会】
小田部長	【あいさつ】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を三川部会長に交代。
三川部会長	付託事項の検討についての1点目、「青少年健全育成運動重点目標の取組状況」を議題とする。この件については前回の専門部会からの継続案件となっており、事務局からの説明を求める。
事務局	<p>資料1「令和4年度茨木市青少年育成のための「重点目標と取組状況」(案)」は、専門部会での検討結果を冊子にまとめたものであり、青少年問題協議会に報告した後、市内の各青少年健全育成団体や小・中学校等に配布している。</p> <p>目次のとおり、青少年健全育成運動重点目標の解説や取組状況、青少年団体の活動状況、「ほっとけん!アワード」、青少年対象の行事实績、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割、構成団体や機関の紹介をした冊子となっている。</p> <p>前回の専門部会では、時点校正中の冊子を資料として示した。今回は、冊子全体の構成や前年度からの変更点、時点校正中の内容について示したいと考えている。</p> <p>1ページでは、茨木市青少年健全育成運動重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で重点目標を意識し、取り組んでいただくことを目的に、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただくこと、さらに、この目標を踏まえ、家庭、学校、地域、行政機関が具体的な取組を行い、青少年の健全育成を推進することについて呼びかけをしている。</p> <p>2ページでは、家庭・学校・地域、ネット世界で「子どもの発するSOSのサイン」の種類を記載している。</p> <p>3ページでは、子どものSOSのサインに対する大人の接し方や心がけ、見守りの必要性について記載している。</p> <p>4ページでは、青少年のインターネット利用時間の増加及びSNSに起因する事案の被害児童数の推移をグラフで示し、最新の令和3年度のデータに更新している。</p> <p>5ページから6ページでは、青少年に関する相談、連絡機関を紹介している。各相談機関の役割や担当は異なるが、青少年のSOSを広くキャッチで</p>

きるように、様々な機関を掲載している。連絡先等については、事務局にて分かる範囲で更新しているが、関係機関に最新の情報を確認予定である。

7ページから11ページにかけては、青少年健全育成関係団体の行事に関する自己点検アンケートの集計結果や活動状況について、10月31日時点で更新した。青少年健全育成補助事業について、前回の専門部会で示した7月31日時点で110行事だったものが、10月31日時点で121行事に増加した。

アンケート項目への回答傾向については、前回から大きく変わっていない。要約については、9ページの「アンケートのまとめ」に記載している。

10ページでは、コロナ禍の前後での行事計画数と、屋内・屋外での行事の計画状況を示している。

11ページでは、種目別の行事実施件数を掲載しており、屋外行事を中心に計画されていることがわかる。

12ページでは、地域で活動する青少年健全育成団体に向けて地域行事やイベント等を開催する際のチェックリストを掲載している。以前は市で作成したチェックリストを配布していたが、現在は大阪府が作成したチェックリストを送付している。

13ページには、各青少年健全育成団体の感染拡大防止を踏まえた活動事例を掲載する予定である。現時点で掲載しているものは、前年度の内容であるため、今後、各協議会や団体に校正等を依頼する予定である。

14ページは、コロナ禍での本市の青少年健全育成の取組として、オンライン会議の推進や野外活動センターにおける少人数短期間での工夫をしたキャンプ、高校生や大学生が小学生に体験活動を企画指導するイベントを記載している。同ページの下段では青少年問題協議会からのメッセージを掲載している。

15ページから16ページでは「ほっとけん！アワード」の紹介をしている。この後の議事でもある、「ほっとけん！アワード」の選出結果により、大賞や奨励賞の行事内容を掲載し、好事例を地域に発信することを考えている。

17ページは「ほっとけん！アワード」の実施要領、18ページは審査基準である。

19ページから22ページにかけては、令和3年度分の青少年健全育成事業補助金の対象行事を掲載している。現在、既に発行している冊子については、令和3年度の12月時点までの行事の実績であったので、実績が確定している現段階において改めて令和3年度分の全行事を掲載した。

23ページから26ページにかけては、令和4年度の10月時点での行事を掲載している。冊子の完成版の作成に向け、時点校正をしていく。

27ページは、育成者対象の行事として、青少年健全育成研修会の報告を掲載している。令和3年度は、「青少年への接し方～家庭、学校、地域でできること～」として、森崎和代先生から、青少年へのより良い接し方のポイントを講義いただいた。今年度の研修については、来年3月を予定してお

	<p>り、冊子の内容を更新する。</p> <p>28 ページから 32 ページにかけては、青少年問題協議会の設置根拠や、経緯、関係図、条例、直近 2 年分の議題、委員名簿等を掲載している。</p> <p>33 ページから 34 ページにかけては、青少年問題協議会の役割や参画団体の活動内容について関係団体や市民に周知するために、各団体の活動や行事等を紹介している。記載内容については、令和 3 年度版の内容を一旦転記しているが、今後、内容を更新する予定である。</p> <p>35 ページでは、青少年問題協議会関係の啓発事業を掲載している。コロナによる中止が目立つ状況にはなっているが、中にはコロナ禍で実施したものもあり、今後につなげられるように継続を図ってまいりたい。</p> <p>資料 2 は、青少年健全育成重点目標リーフレット（案）である。これは、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成関係者に配布し、年度によって内容も更新している。背景やタイトルの色について年度の区別をつけやすいように変更する。また、相談機関について、内容の確認と更新を行い、中面に掲載している写真も変更する。</p>
三川部会長	<p>ここまでの内容について、意見や質問はあるか。</p> <p>< 質疑等なし ></p>
三川部会長	<p>次に、付託事項の検討についての 2 点目「「ほっとけん！アワード」の選出」についてを議題とする。この件については、コロナ禍以降、書面による審査を行っていたが、前回の専門部会にて委員より「ほっとけん！アワードの説明には実施団体からのプレゼンテーションが必要ではないか。」という趣旨の意見をいただいたことを踏まえて調整を行った結果、エントリーのあった団体からプレゼンテーションをいただける運びとなった。</p> <p>各協議会から推薦された青少年健全育成行事について、団体代表者からのプレゼンテーションの後、本日ご出席の委員の皆様へ審査をいただき、大賞「ほっとけん！アワード」及び奨励賞の決定を行う。では、事務局より説明を求める。</p>
事務局	<p>資料 3 「令和 4 年度ほっとけん！アワードエントリー行事」に記載している 3 つの協議会、小学校区子ども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年健全育成運動協議会から行事の推薦があった。一方、青少年会育成会と青少年指導員会からは応募がなかった。今回の専門部会では、この 3 つの行事に対し、大賞 1 行事、奨励賞 2 行事を選定するため、委員の皆様へ採点をお願いしたい。</p> <p>発表から採点の流れについて、各協議会より推薦を受けた団体よりエントリーシートに基づいて 5 分程度で発表をいただいた後、質疑応答の時間を取り、採点をいただく。この流れを 3 つの行事に対して繰り返す。なお、</p>

<p>玉島小学校 区校こ連 発表者</p>	<p>採点の際、立候補団体の属する協議会の代表委員は、他の協議会に属する団体行事のみに採点をいただく。</p> <p>会場参加の委員については3行事分をまとめて採点表を回収させていただき、オンライン参加の委員については12月5日までに事務局へ採点表をメール等で提出いただきたい。後日、事務局にて集計を行い、結果を報告させていただきます。</p> <p>発表順は、1番目が小学校区こども会育成連絡協議会、 2番目が小学校区青少年健全育成運動協議会、 3番目が中学校区青少年健全育成運動協議会とする。</p> <p>それでは、玉島小学校区こども会育成連絡協議会の「ソフトボール・キックベース玉島校区大会」について説明を求める。</p> <p>当行事は、青少年健全育成運動重点目標「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」の実現を目指し、歴史ある校区大会を通じて、コロナ禍においても地域とのつながりを感じたり、周囲への感謝の気持ちや思いやり等を持ってもらえるような交流イベントにすることを目的として実施した。</p> <p>「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」に関して、最初に役員、保護者、子ども達との約束ごととして、「自分でできることは自分でやろう」、「一人でできないことはみんなでやろう」、「こどもだけでできないことは大人に手伝ってもらおう」という話をした。</p> <p>「青少年との相談」について、決めなければいけないことを子ども達に認識してもらった上で、より多くの子ども達に参加してもらえるよう、低学年や未就学児でも一緒に楽しめる競技方法やルールを相談した。例えば、キックベースボールでは、ホームベースから8mのラインを超えないとフェアキックにならないというルールがある。しかし、低学年はそれを越えられないことが多いため、子ども達に相談し、どうしたらよいかを一緒に考え、低学年用に4mのラインを引き、そこを超えるとフェアにすることとした。行事には未就学児も何名か参加してくれた。4mのラインにも届かない場合は、3球蹴って全てファールでも、一塁まで走って良いというルールを子ども達が提案してくれた。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」について、子ども達から、各チームが接戦になるようなチーム分けの提案があった。その希望を取り入れた結果、ソフトボールは1試合目が接戦、2試合目がさよなら勝ちというゲームになった。キックベースボールは、2試合とも1点差となり、子ども達が深く考えてチーム分けをしたことが感じられた。</p> <p>また、選手宣誓文や参加賞の内容を子ども達が相談して決めた。従来は、こども会の役員が選手宣誓の見本を示し、作成を指示していた。今回は見本を示さず、まずは自分達でやってみようと思わせ、ソフトボール、キックベースボール各2チームのメンバーが、性別やクラスが異なるにもかかわらず相談を重ねて文章を推敲し、とても素晴らしい宣誓文を考えてくれた。</p>
-------------------------------	---

	<p>参加賞については、どのような物が欲しいかを質問をすることから始め、子ども達の意見や希望を取り入れ、買出しや袋詰めも一緒に行った。</p> <p>「青少年の役割」として、練習期間を通じて道具の準備、コート設営を行ってもらった。私が前任者から役職を引き継いだ9年前は、少しでも練習時間が長くなるよう、こども会役員や保護者が全ての運営や準備を行っていた。しかし、今回は「自分でできることは自分でやろう」、「一人でできないことはみんなでやろう」、「子どもだけでできないことは大人に手伝ってもらおう」という意識で取組んだ。また、上級生が下級生の世話や指導をし、練習期間中には数名の中学生が参加し、様々な手伝いや世話をしてくれた。</p> <p>「アピールポイント」として、大会当日は審判員として地域の方々に協力をいただいたほか、練習期間を通じて保護者、スポーツ団体、地域団体の方々にたくさん参加していただき、コロナ禍で希薄になっていた地域のつながりを復活させることができた。保護者もほぼ毎回、全員参加をしてくれ、子ども達と一緒に楽しんだり、保護者同士で様々な情報交換をしていた。私が単身赴任をしている都合上、行事の打ち合わせをどうするかが課題でもあったが、子ども達の方からオンライン会議の提案があり、大会に向けた打ち合わせを行うことができた。</p> <p>「苦労した点」について、コロナ禍での実施であったことから、練習を含めて毎回、検温や手指消毒、参加者名簿の管理を実施した。また、オンライン会議で、対面でなければ話ができないことや調整を行った。地域の行事がコロナ禍で中止になっている中で、当行事の実施を懸念する意見が地域から挙がったので、地域の各団体には、行事实施の趣旨を説明し、理解をいただいた。</p> <p>また、大人は何をすれば良いか把握できているので、大人の手で行ってしまいたいが、先回りをせず、子ども達に質問や促しをしながら、自主的な行動を待つことが一番苦労した。けれど、結果としては大変素晴らしい校区大会となった。</p>
事務局	今の説明について、質問はあるか。
福井委員	参加賞はどのようなものにしたのか。
玉島小学校 区校こ連 発表者	子ども達が意見を出し合い、菓子や文房具の詰め合わせとなった。具体的にどの商品が良いかについて子ども達が考え、保護者と一緒に買出しや袋詰めを行った。
三川委員	継続期間が第41回と記されており、大変精力的に取り組んでこられたと拝察する。これまでの伝統的な活動と、今回の新たな取組の工夫等についてお聞かせいただきたい。

玉島小学校 区校こ連 発表者	<p>これまでは、地域のほとんどの子どもがこども会に加入し、校区大会には経験がない子ども達も含め、みんなで参加し、10チーム以上が競い合う等、大変盛り上がっていた。しかし、次第にこども会や会員数が減少し、参加者を集めるのに必死という状況になった。コロナ禍となり、大会が3年振りだったことから、未就学児や保護者も含め、みんなで参加して楽しんでもらえるレクリエーションにした。来年度以降のあり方が大きな課題になると感じている。</p>
司会	<p>今の説明について質問はあるか、無ければ採点を願う。 次に、彩都西小学校区青少年健全育成運動協議会の「「弁当の日」講演会」について説明を求める。</p>
彩都西小学 校区青健協 発表者	<p>当行事では、映画「弁当の日」の作者であり、出演もされている竹下和男氏の講演会と映画上映会を行った。コロナ禍で人との関わりが少ない中、子ども達に身近な人とともに食べることを考えたり、楽しんだり、絆を深めてもらうことを目的に企画、開催した。</p> <p>令和3年11月26日、4年生は授業中に、保護者には夕方に講演会を実施した。講師の竹下氏に尋ねてみたいことについて、事前に子ども達へアンケートを取り、それを踏まえて講演メニューの中から子ども達自身が聴きたいテーマを選んだ。子ども達を対象に「人は食により人となる」、保護者を対象に「弁当の日が学力を育む」という内容で講演をいただいた。また、12月22日には「弁当の日」の映画上映を行った。</p> <p>食や人とのつながりに対する考え方等について、子ども達の正直な気持ちを知りたいと思ったので、竹下氏の講演後、子ども達に感想文を書いてもらうように働きかけた。さらに講演会后、「帰ったら、大人の力を借りずに家族の弁当をつくってください。」と声かけし、家族で食卓を囲んでもらうきっかけづくりをした。講演会に参加した多くの子ども達が家族の弁当をつくり、楽しんでくれたようだ。</p> <p>当校区は、まちびらきから18年ほどの新しい地域であり、様々な公益組織があるが、縦割りの活動が多いという現状がある。当行事は、青少年健全育成運動協議会と小学校区人権啓発推進委員会、コミュニティセンター管理運営委員会の3つの組織による共同作業で実現した。資料の通り、ポスター等をコミュニティセンターや公民館、小学校の掲示板に掲示した。その際、地域自治組織の彩都西小学校区まちづくり協議会が非常に役立った。青少年健全育成運動協議会は、その構成団体の一つであり、当行事の実施にあたって協力を依頼したところ、積極的に協力をいただけた。また、当行事がきっかけとなり、組織の横のつながりが広がった。例えば、11月6日にコミセンまつりが開催されたが、青少年健全育成運動協議会だけでなく、小・中学校PTAの方々が精力的に参加された。また、11月26日には、自主防災会主催の防災訓練と、彩都西小学校区まちづくり協議会主催の秋祭りを</p>

	<p>同時に開催する形となり、放課後子ども教室の参加者にポスターを描いてもらう等、組織同士が連携した行事が開催され始めている。</p> <p>コロナ禍のため、人との関わりが制限される状況が今後も続くと思われるが、当行事が契機となり、子ども達がまちづくりに参加できることを示すとともに、組織同士のつながりを深めるノロシを上げることができたように感じている。</p>
司会	今の説明について質問はあるか。
福井委員	子ども達の感想文には、どのような内容が多かったか。
彩都西小学校区青健協 発表者	一番多かったのは、なかなか家族が揃って食事をとることができないというものだった。これは致し方ないのかもしれないが、学校で食べる給食を除き、朝食や夕食を一人で食べたり、母と子どもだけ、あるいは子ども達だけで食べるという内容が多く表れていた。私自身が直接、何か対応することは難しいかもしれないが、週に1回でも良いので、家族と一緒に食べて欲しいと思う。子どもが家族のためにつくった弁当を写真に残してもらうようお願いしており、今後、SNS等で「彩都西弁当の日」という形で紹介できたらと感じている。
三川部会長	子ども達に弁当づくりに挑戦してもらい、保護者が食べた際の感想を紹介いただきたい。
彩都西小学校区青健協 発表者	具体的に保護者の感想を聞く機会は無かったが、どのような弁当でも、子どもが親のためにつくってくれば、感動しない親はいないと思うし、非常にうれしいのではないだろうか。
事務局	今の説明について質問はあるか、無ければ採点を願う。 次に、東中学校区青少年健全育成運動協議会の「東中校区フェスタ」について説明を求める。
東中学校区 青健協 発表者	<p>当行事は学校と地域がつながり、中学生の居場所をつくり、見守るという目的で実施した。当日の運営は中学生が行い、中学生と地域の大人と一緒に行事をすることによって、顔見知りとなり、声をかけあう関係づくりにつながっている。中学生は忙しいので時間が合いにくいですが、当日運営のための事前打ち合わせをできる限り一緒に行っている。</p> <p>令和3年度はコロナ禍のため例年よりも規模を縮小したが、SDGsを意識し、間伐材とソーラーパネルを搭載した木製電気自動車試乗会とアトラクションを実施した。電気自動車試乗会は、大阪産業大学のゼミに所属する大学生に協力いただいた。アトラクションコーナーは中学生が運営し、来</p>

	<p>場した小学生や未就学児に遊び方を指導しながら、いかにして楽しんでもらうかを考えて実施してくれた。大人は安全を見守る立場で配置した。</p> <p>当行事は、平成 20 年に青少年健全育成運動協議会大会として始まり、平成 26 年に校区フェスタに改名した。青少年健全育成運動協議会大会の頃から、中学生がスタッフとして関わってくれている。大阪北部地震の前年より始めた防災アトラクションをきっかけに、災害時は自分達が行動するという意識を持ってきていたようで、実際に大阪北部地震で中学校が避難所になった際は、自分達ができることを教員に相談する等、積極的に動いていた。今回はコロナ禍で実施できなかったが、例年は 600 名分のカレーを中学生が作り、参加者やスタッフに振る舞っている。それを楽しみに参加される方も多いが、今回は実施できない旨を説明し、理解をいただいた。</p> <p>以上のように、当行事の担い手は中学生であり、大人は見守りや応援をするというポジションを取りながら、社会情勢に合わせた内容で今後も実施していく予定である。</p>
事務局	今の説明について質問はあるか。
福井委員	どのようなアトラクションを設けたのか。
東中学校区 青健協 発表者	ブロック倒し、的当てゲーム、サッカーボーリング等である。資料にアトラクションの写真を添付しているのでご覧いただきたい。ブロック倒しでは、中学生がブロックを作製した。サッカー部等、部活動に所属する生徒が各アトラクションの運営を担当してくれた。
三川部会長	間伐材を利用した木製電気自動車試乗会は、非常に興味深い。この取組は子ども達から発案があったのか。また、大阪産業大学から協力してくれた大学生との交流についてお聞かせいただきたい。
東中学校区 青健協 発表者	<p>大阪産業大学の教員がゼミで電気自動車をつくっておられ、当行事の準備段階で協力の申し出をいただいた。近年、注目されているSDGsの取組にもつながることから、木製電気自動車試乗会をすることになった。子ども達も初めての体験となり、興味深いであろうから、ぜひ実施しようという話になった。</p> <p>当日は、男子児童・生徒の興味や関心を特に引き付け、木製電気自動車の構造や仕組み等について熱心に質問をしていた。大阪産業大学の大学生が、専門知識をできるだけ入れずにかみ砕いて説明し、機械と環境を通して世代間交流ができていた。</p>
事務局	今の説明について質問はあるか、無ければ採点を願う。ここで発表者は退席となる。集計結果については後日、事務局よりメール等で委員の皆様へ報告

三川部会長	<p>告する。</p> <p>次に、付託事項の検討についての3点目、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。各委員からそれぞれの現場等における青少年育成の現状について報告いただき、課題の共有を図りたい。では、委員より発言を求める。</p>
平松委員	<p>私の所属している小学校区では、コロナ禍のため3年間に渡って活動ができておらず、問題意識を持っている。コロナ禍でも工夫をしながら、何らかの形で行事を実施できるよう、PTAと真剣に話し合った。新型コロナウイルスに感染してしまった際の責任の所在が課題となり、なかなか話は進まなかったが、PTA会長と時間をかけて互いの気持ちを打ち明けながら議論した。</p> <p>本日の「ほっとけん！アワードの選出」に係るプレゼンテーションを聴講し、様々な工夫や知恵で面白い活動ができること改めて感じた。さらに視野を広げ、たくさんのことに取り組む必要性があると感じた。</p> <p>次年度、私の所属する校区の小学校が創立70周年を迎えるにあたり、青少年健全育成運動協議会としても活動を行い、地域の人みんなで創立を祝い、コロナ禍に負けず、様々な行事を展開していきたい。</p>
浦野委員	<p>コロナ禍が影響し、様々な活動が制限されているが、こども会育成者が感染症拡大防止対策を徹底し、子ども達自身も手洗い等に積極的に取り組みながら活動している。</p> <p>10月22日、23日にこども会親善スポーツ中央大会を実施し、ソフトボールとキックベースボールの競技試合を行った。昨年と比較し、若干多くのチームが参加した。来年1月7日には、こども会親善百人一首カルタ競技大会を実施予定で、20チームが参加する。</p> <p>コロナ禍のため今まで中止となっていた行事も、子ども達が楽しみにしているので、やめるのではなく、どのようにしたら実施できるかを考え、調整を進めている。</p>
明瀬委員	<p>中学校の現場では様々な新しい課題が出てきている。特に不登校については、非常に早急な対策を取ってもらっていると感じる。青少年健全育成運動協議会として、地域の青少年指導員も含め、どのような形で子ども達に悩みを打ち明けてもらえるか、気軽に声をかけあえる関係づくりができるのかについて、コロナ禍で試行錯誤している。</p> <p>資料2の青少年健全育成重点目標リーフレット(案)では、大人が相談できる機関は多くあるが、子ども自身が相談できる、子どもからSOSを出せる機関があるということについては、見せ方が少し硬く感じる。</p> <p>子ども達が悩んだ時に傍で聞いてくれる大人がいることは大切であるの</p>

<p>桑本委員</p>	<p>で、行事を通しながら関係を築いていきたいと思う。また、最近のPTA活動は控え目になっているようにも感じる。PTAだけでなく、地域や関係団体が積極的に関わりあう関係づくりも大事だと思う。</p> <p>PTA協議会では、竹内和雄氏による、保護者と子どもを対象としたスマートフォンやインターネットに関する講演を実施し、今年で3年目になる。今年度は来年2月の実施予定であり、追って案内が各学校・園に届くと思うので、ご参加いただきたい。講演を踏まえ、子どもと保護者が話すきっかけになって欲しいという思いはあるが、円滑にできる家庭ばかりではないのが現状である。</p> <p>私が所属する校区の小学校では、PTA活動が縮小傾向にある。積極的に関わっていただける保護者が減少していると思われ、コロナ禍でさらに加速しているように感じられる。PTA活動の中で縮小して良い部分はあるのかもしれないが、そうでない部分もある。全ての保護者には理解いただけないのが現状で、PTAの必要性を疑問視する意見もあり、どの校区のPTAも活動を継続することの難しさに直面している。</p>
<p>藤森委員</p>	<p>青少年健全育成運動協議会や市PTA協議会、市議会議員等、あらゆる組織の中に青少年指導員がいる。先日、茨木市青少年指導員連絡協議会発足40周年記念としてスローイングビンゴ大会を行った。最後まで大変盛り上がり、太田中学校の優勝で終了した。</p> <p>数年前までは、学校の夏休み期間等に巡回街頭指導を行っていたが、今年もコロナ禍のため中止となった。来年1月には、青少年指導員数名が二十歳のつどいの受付等に協力する予定である。</p>
<p>福井委員</p>	<p>私は不登校の子どもをもつ保護者の団体に関わっており、近年、コロナ禍の影響もあり、不登校に関する相談件数が増加している。資料2の青少年健全育成重点目標リーフレット(案)は、基本的に家族が機能しているであろうと思われる世帯を対象に作成されていると感じる。家族として、十分に保護的な役割が果たせていない場合でも、中学生や高校生は自分でSOSを求められる。そのSOSを求める先や声を発せられる場として、相談機関を色分けして子ども達に分かりやすく伝えることも、工夫の一つとして取り組めるのではないかと思う。</p> <p>「毒親」という言い方が適切かは分からないが、保護者側の問題に子ども達が振り回されてしまう面もある。特に不登校の場合、スクールカウンセラーとの接点も少ないので、第三者的な相談機関で不登校の子どもがSOSを出せる場所があると良い。</p>
<p>越智委員</p>	<p>先ほど桑本委員からも報告があったように、今後、PTAの形が大きく変わる可能性が高いと感じている。コロナ禍が3年目となる中、小学校区青少</p>

	<p>年健全育成運動協議会の活動の一つとして「みんなでやってみよう」という行事が実施された。子ども達が様々なアトラクションを経験し、最後に点数によって参加賞がもらえるという取組で、小学校全児童 400 名ほどのうち、半数以上が参加した。今までは、午前中に実施していたが、今回は感染症拡大防止対策として、午前・午後の 2 部制とし、たくさんの教室に分散させて密を避ける形で実施した。子ども達が参加したいと思っている行事が、コロナ禍でできなくなっている現状があるので、今後もできる限り工夫しながら、活動をしていきたいと考えている。</p>
<p>角谷委員</p>	<p>これまで大阪府下において、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置への協力をお願いしてきた。徐々に新型コロナウイルスは弱毒化してきたが、感染力は強くなる面もあり、状況に応じて様々な対策をお願いしている。保健所としては、感染拡大防止が一番の使命であるが、そればかりでは経済活動が止まり、地域のコミュニケーションも減少してしまう。皆様が関わっている地域の様々な団体等のつながりである地縁活動は、青少年健全育成の面で非常に重要であることを改めて認識した。地域の活動を進めていかないと、つながりが希薄化してしまう。コロナ禍で益々縮小することのないよう、保健所としても様々な情報を提供し、必要に応じて問い合わせをいただいても構わないので、子ども達の健全育成をともに支えていきたい。</p> <p>また、SNS への依存も非常に大きな問題になっており、心の健康問題につながっている。インターネットで心の健康相談を調べていただければ、大阪府や各市の相談機関が出てくるので、参考にさせていただきたい。</p>
<p>内田委員</p>	<p>高校生の現状として、SNS 上の狭い集団はたくさんつくるが、そこから一旦外れると友達が全くおらず、実生活の中でどのように人間関係を築いていけば良いのかが分からない状態になっている。リアルな体験が乏しいので、ぜひ地域の活動に高校生を誘っていただきたい。</p> <p>感染症拡大防止については、高校生達も心得て、修学旅行や文化祭等の行事をはじめ、日常でも対策をしてくれている。</p>
<p>廣瀬委員</p>	<p>中学生としては、マスクを着けているために表情が読めない状況や、会話のない黙食が続き、仲間の気持ちを推測したり、コミュニケーションを取ることが非常に苦手となり、些細なことでトラブルになっている現状がある。また、本校も含め、茨木市内の公立中学校で登校渋りや不登校生徒が増加している。コロナ禍でコミュニケーションを取りにくい状況が続いていることから、生徒が通りかかったときに声をかけてもらおうといったことが、生徒の励みや心の救いになると思う。地域の方にも協力をいただき、生徒への声かけを増やしていただけるとありがたい。</p>
<p>三川部会長</p>	<p>付託事項の検討については、本日いただいた意見を次回の青少年問題協</p>

事務局	<p>議会で報告する。異議はないか。</p> <p>< 異議なし ></p> <p>令和4年度茨木市青少年問題協議会は、令和5年2月頃に開催予定としている。決定次第、改めて通知する。</p>
三川部会長	<p>以上をもって、令和4年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会を終了する。</p>